

1. アンケート調査の実施概要

1.1 調査の目的

第6次総合計画の策定にあたり、まちづくりに対する市民の意向などを把握し、計画づくりに反映させることを目的として住民意識調査を実施しました。

1.2 調査項目

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| (1) 回答者の属性 | (7) 防災について |
| (2) 白井市で暮らすことについて | (8) 市民参加・協働によるまちづくりについて |
| (3) 市の移動実態について | (9) 市の産業振興について |
| (4) 市の取組について | (10) 都市づくりについて |
| (5) 子育て支援について | (11) 行政のデジタル化について |
| (6) 学校教育について | (12) 市政について |

1.3 調査設計と回収状況

- | | |
|----------|------------------------------|
| (1) 調査地域 | : 白井市全域 |
| (2) 調査対象 | : 白井市在住の18歳以上の男女2,500人 |
| (3) 抽出方法 | : 2023年12月末日現在の住民基本台帳より無作為抽出 |
| (4) 調査時期 | : 2024年1月12日（金）～2月2日（金） |
| (5) 実施主体 | : 白井市 |
| (6) 回収状況 | : 有効回収数（回収率）1,308件（52.3%） |

<調査結果の見方>

- 1) 集計は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを示しています。したがって、数値の合計が100.0%にならない場合があります。
- 2) 回答（%）は、その質問の回答者数を基数として算出しています。したがって、複数回答の設問は全てを合計すると100.0%を超えることがあります。
- 3) クロス集計のうち、サンプル数の少ない属性については、誤差が大きいため分析の対象にしていません。
- 4) 単一回答の設問について複数回答をいただいていた、選択個数制限付きの複数回答の設問（3つまで回答など）について選択個数制限以上回答をいただいたりするものを無効回答としています。

1.4 調査結果の要約

(1) 白井市で暮らすことについて

P. 17

1) 白井市について

白井市に好感を持っている人は約7割。前回調査と比べ1.9ポイント増加

「好き」(26.1%)と「どちらかというとき好き」(46.2%)を合わせた、白井市に好感を持っている人は72.3%と、前回調査と比べて1.9ポイント増加しています。

P. 19

2) 住みやすさ

白井市に住みやすさを感じている人は前回調査と比べ1.2ポイント減少

「住みやすい」(19.2%)と「どちらかというとき住みやすい」(47.7%)を合わせた、白井市に住みやすさを感じている人は、66.9%となっています。前回調査と比べると、白井市に住みやすさを感じている人は前回調査と比べ1.2ポイント減少しています。

P. 21

3) 定住意向

約6割の人が「住み続けたい」と回答

定住意向については、「住み続けたい」が60.9%と最も高くなっています。一方で、「移住したい」が10.2%、「住み続けたいとは思いますが、市外に移住する可能性がある」が24.7%となっています。

年代別にみると、80歳以上を除き、年代が高くなるほど、「住み続けたい」の割合が高くなっています。

(2) 市の移動実態について

P. 29

1) 用事別の行き先

『食料品などの日常の買い物』や『病院や福祉施設などへの通院・通所』を目的とした外出の行き先は「白井市内」が約7割

用事別の行き先をみると、『食料品などの日常の買い物』や『病院や福祉施設などへの通院・通所』では「白井市内」が7割以上で、最も高くなっています。また、『衣料品・家電・家具などの買い物』では「白井市内」が21.6%で、「印西市」(45.0%)が最も高くなっています。

一方で、『放課後・仕事後・余暇に遊びに行く場所』では「その他」が32.9%で最も高く、「印西市」が24.9%で次いで高くなっています。「その他」の内訳をみると、「都内」が多い傾向にあります。また、「白井市内」が12.0%となっています。

P. 39

2) 用事別の交通手段

すべての用事で「自家用車（自分で運転）」が最も高い

用事別の交通手段は、全ての用事で「自家用車（自分で運転）」が最も高くなっています。

次点をみると、『食料品などの日常の買い物』『病院や福祉施設などへの通院・通所』では「徒歩・自転車」がそれぞれ30.7%、17.3%となっています。『衣料品・家電・家具などの買い物』では「自家用車（家族等が送迎）」が16.2%、『放課後・仕事後・余暇に遊びに行く場所』では「鉄道」が28.0%となっています。

(3) 市の取組について

P. 55～65

1) 施策の満足度

子育て、健康・保健・医療分野の満足度が高い

「子どもの医療費助成など子育て支援」や「保育園の整備など子育ての環境づくり」といった子育て分野、「乳幼児健診など母子の健康対策」や「健康づくりの推進」といった健康・保健・医療分野、「歴史・文化財の保存と活用」といった生涯学習分野、「街路樹など街中のみどりの保全」といった住環境・生活基盤分野での施策で満足度が高くなっています。

一方、「休日・夜間や緊急時の医療体制」といった健康・保健・医療分野、「商店街や工業団地などの活性化の支援」や「企業誘致の推進」といった産業振興分野、「鉄道の運賃問題対策」や「路線バスやコミュニティバスの利便性向上の取組」といった住環境・生活基盤分野で満足度が低くなっています。

前回調査と比べて、満足度は「鉄道の運賃問題対策」が大きく上昇しています。その他、防災・防犯分野の全ての施策など、20 施策で満足度が上昇しました。一方で、「計画的な土地利用・開発」で大きく満足度が低下しています。その他、健康・保健・医療、生涯学習、産業振興分野の全ての施策など、25 施策で満足度が低下しています。

2) 施策の重要度

防災・防犯、健康・保健・医療、産業振興、自然環境・生活環境の重要度が高い

「地震・台風などに備えた防災対策」といった防災・防犯分野、「休日・夜間や緊急時の医療体制」といった健康・保健・医療分野、「鉄道の運賃問題対策」といった住環境・生活基盤、「不法投棄防止対策」といった自然環境・生活環境分野、「道路の整備」や「路線バスやコミュニティバスの利便性向上の取組」といった住環境・生活基盤分野で重要度が高くなっています。

前回調査と比べて、重要度は「商店街や工業団地などの活性化の支援」「企業誘致の推進」「道路の整備」「上・下水道の整備」などで大きく上昇しています。その他、福祉分野の全ての施策など、35 施策で重要度が上昇しています。一方で、「鉄道の運賃問題対策」で重要度が低下しています。その他、子育て分野の全ての施策など、10 施策で重要度が低下しています。

P. 67

3) 子育て支援について

市の少子化対策・子育て支援施策として充実させて欲しい取組は「養育や教育にかかる費用負担の軽減」が約4割

市の少子化対策・子育て支援施策として充実させて欲しい取組は、「養育や教育にかかる費用負担の軽減」(38.1%)が最も高く、「共働き世帯の子どもの居場所づくり」(34.3%)が次いで高くなっています。

年代別にみると、18歳～49歳と70～79歳では「養育や教育にかかる費用負担の軽減」が最も高くなっています。50歳～59歳と80歳以上では「医療費への助成」が最も高くなっています。60歳～69歳では「共働き世帯の子どもの居場所づくり」が最も高くなっています。

4) 学校教育について

市の学校教育施策として充実させて欲しい取組は、「社会性・道徳心の育成」が約5割

市の学校教育施策として充実させて欲しい取組は、「社会性・道徳心の育成」(49.6%)が最も高く、「いじめ防止対策の推進」(45.5%)が次いで高くなっています。

年代別にみると、18歳～39歳では「社会性・道徳心の育成」「いじめ防止対策の推進」が同率で最も高くなっています。それ以外の年代では「社会性・道徳心の育成」が4割以上で最も高くなっており、「いじめ防止対策の推進」も4割以上で次いで高くなっています。

5) 防災について

市に推進して欲しい防災対策は、「断水時に備えた給水体制の整備」が最も高く約6割

市に推進して欲しい防災対策は、「断水時に備えた給水体制の整備」(61.1%)が最も高く、「ライフラインの維持・復旧対策」(55.7%)が次いで高くなっています。

居住地区別にみると、白井第二小学校区では「食糧や救護資材などの備蓄」が最も高くなっています。七次台小学校区では「ライフラインの維持・復旧対策」が最も高くなっています。それ以外の地区では、「断水時に備えた給水体制の整備」が最も高くなっています。

6) 市の産業振興について

地場農産品の購入状況を見ると、地場農産品を意識して購入している人が約5割に対し、地場の農産品を意識して購入していない人が約4割

「週に2回以上購入している」(7.3%)と「週に1回程度購入している」(17.7%)、「月に1度程度購入している」(21.2%)を合わせた地場農産品を意識して購入している人が46.2%に対し、「地場の物か購入の際に確認していない」と回答した地場農産品を意識して購入していない人が43.4%となっています。

性別にみると、女性では地場農産品を意識して購入している人が高いですが、男性では地場農産品を意識して購入していない人が高くなっています。

年代別にみると、年代が高くなるほど、「週に2回以上購入している」「週に1回程度購入している」の割合が高くなっています。なかでも、70歳以上では「週に2回以上購入している」「週に1回程度購入している」の割合が3割以上となっています。

7) 市の情報の入手先について

市の情報の入手先は「広報しろいを含む市の発行物」が8割以上

市の情報の入手先は、「広報しろいを含む市の発行物」(82.6%)が最も高く、「地域の新聞やミニコミ誌」(29.1%)が次いで高くなっています。

年代別にみると、全ての年代で「広報しろいを含む市の発行物」が最も高くなっています。次点をみると、18歳～29歳では「友人・知人」が約3割となっています。30歳～69歳では「市のホームページ」が約3割となっています。70歳以上では「地域の新聞やミニコミ誌」が4割以上となっています。

(4) 市民参加・協働によるまちづくりについて

P. 73

1) 地域の課題解決

地域の課題に対して地域住民が協力して解決に向けて取り組んでいると思う人は、約4割

地域の課題解決に地域の住民が協力して解決に向けて取り組んでいると思うかについて、「思う」(8.8%)、「やや思う」(29.9%)を合わせた、地域の課題解決に地域の住民が協力して取り組んでいると思う人が38.7%となっています。

一方、「思わない」(14.2%)、「あまり思わない」(25.9%)を合わせた、地域の課題解決に地域の住民が協力して取り組んでいると思わない人は40.1%となっています。

P. 75

2) 地域活動への参加状況

ほぼ全ての地域活動では「今後取り組みたい」が多い

地域活動への参加の状況は、「どちらともいえない」と「わからない」を除き、青少年を支援する活動(子ども会、PTA活動など)以外の地域活動では「今後取り組みたい」が最も高くなっています。青少年を支援する活動(子ども会、PTA活動など)では「取り組みたくない」が最も高くなっています。

P. 87

3) 市民参加・協働によるまちづくりを進めるために参加・活動したい取組

「市政やまちづくりに関する情報の取得」が最も高く約4割、次いで「地域活動や市民活動への参加」が約3割

市民参加・協働によるまちづくりを進めるために参加・活動したい取組は、「市政やまちづくりに関する情報の取得」(41.4%)が最も高く、「地域活動や市民活動への参加」(26.0%)が次いで高くなっています。

性別にみると、男女ともに「市政やまちづくりに関する情報の取得」が最も高くなっています。次点をみると、男性では「市民と市職員の交流や意見交換」、女性では「地域活動や市民活動への参加」が高くなっています。

年代別にみると、全ての年代で「市政やまちづくりに関する情報の取得」が最も高くなっています。次点をみると、18歳～29歳と80歳以上では「無回答および無効回答」を除き、「市民と市職員の交流や意見交換」が高くなっています。30歳～49歳では「市のイベントや行事の市民主体による開催」が高くなっています。50歳～79歳では「地域活動や市民活動への参加」が高くなっています。

(5) 都市づくりについて

1) 市全域の都市づくりの意向

P. 91

「地域経済の活性化や雇用促進のための企業誘致推進に係る都市環境整備」が最も高く、約3割、次いで「現在の市街地の未利用地の活用」と「農地やみどりの保全の積極的な推進」がそれぞれ約2割

市全域の都市づくりの意向は、「地域経済の活性化や雇用促進のための企業誘致推進に係る都市環境整備」(30.4%)が最も高くなっています。次いで、「現在の市街地の未利用地の活用」が23.5%、「農地やみどりの保全の積極的な推進」が20.5%となっています。

居住地区別にみると、白井第二小学校では「現在の市街地の未利用地の活用」と「農地やみどりの保全の積極的な推進」が同率で、最も高くなっています。白井第三小学校区では、「現在の市街地の未利用地の活用」が最も高くなっています。七次台小学校区では、「現在の市街地の未利用地の活用」と「地域経済の活性化や雇用促進のための企業誘致推進に係る都市環境整備」が同率で、最も高くなっています。それ以外の地区では「地域経済の活性化や雇用促進のための企業誘致推進に係る都市環境整備」が最も高くなっています。なかでも、池の上小学校区では「地域経済の活性化や雇用促進のための企業誘致推進に係る都市環境整備」が37.2%となっています。

2) 望ましい地域住民と市の役割分担

P. 97

「地域住民の理解や協力を得ながら、市が主体となって取り組む」が最も高く、約5割

望ましい地域住民と市の役割分担は、「地域住民の理解や協力を得ながら、市が主体となって取り組む」(51.6%)が最も高く、「地域住民と市が話し合い、役割分担しながら協働で取り組む」(30.7%)が次いで高くなっています。

3) 拠点形成にあたって重要な施設・機能

P. 99～102

白井駅前、西白井駅前ともに、重要と考える施設・機能は「飲食系商業施設」が最も高い

白井駅前、西白井駅前ともに重要と考える施設・機能は、「飲食系商業施設」が約5割と最も高く、「飲食以外の商業施設」が約3割と次いで高くなっています。

4) 白井総合公園について

P. 103～107

**利用する頻度は「利用したことがない」が最も高く約5割、次いで「年に数回」が約4割
魅力向上に必要なことは「カフェや飲食店の設置」と「きれいなトイレの維持」が最も高く、約2割**

利用する頻度は、「利用したことがない」(45.2%)が最も高く、「年に数回」(41.1%)が次いで高くなっています。

白井総合公園の魅力向上に必要なことは、「カフェや飲食店の設置」(19.0%)と「きれいなトイレの維持」(19.0%)が同率で最も高くなっています。「屋根付きのベンチなど休める場所の整備」(15.2%)が次いで高くなっています。

年代別にみると、18歳～29歳、40歳～49歳では「カフェや飲食店の設置」が最も高くなっています。30歳～39歳、50歳～59歳、80歳以上では「きれいなトイレの維持」が最も高くなっています。60歳～79歳では「屋根付きのベンチなど休める場所の整備」が最も高くなっています。